

# 日本銀行と仲介機関の業務と役割分担

財務省・日本銀行  
2025年12月11日

## ■ 想定されるCBDCの発行・流通の基本的な流れのイメージ（P8～9）

- まず、利用者は、CBDCの利用に当たり、仲介機関との間で取引の開始に必要な手続きを行う。
- 次に、利用者は、仲介機関に依頼することで、現金又は仲介機関に対する預金等と引換えに、CBDCの払出を受ける。この際、日本銀行は、仲介機関の依頼に応じ、当該仲介機関の日本銀行当座預金を減額する一方で、同額のCBDCを発行する。
- その上で、利用者は仲介機関を通じて決済指図を行い、CBDCの移転が行われることになる。

## ■ 日本銀行の役割（P9）

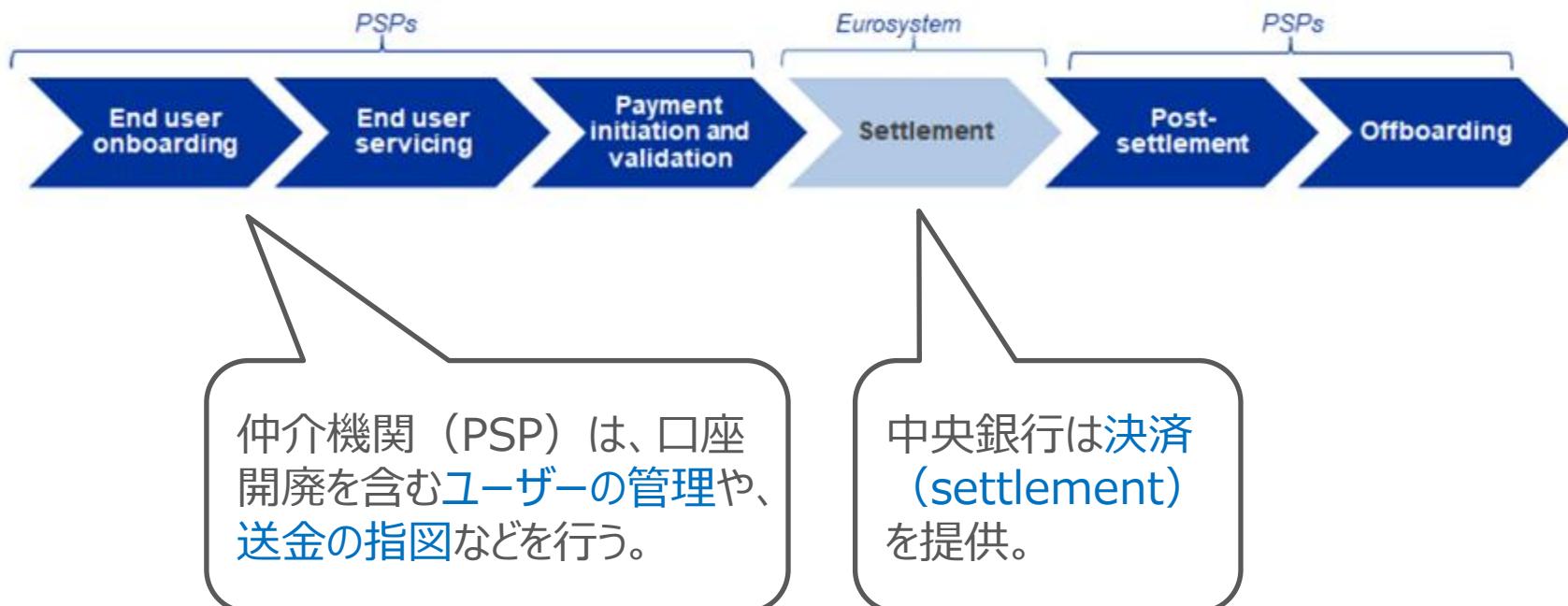
- 日本銀行は、CBDCを自らの負債として一元的に発行することから、その記録・確認を正確に行うための仕組み（台帳等）の管理を行うことが適当。
- 日本銀行の役割としては、こうした仕組みの管理に留まらず、民間事業者のイノベーションを促進することを通じて、民間決済サービスの高度化を図るといった「触媒」としての役割を果たすことも求められる。

## ■ 仲介機関の役割（P9～10）

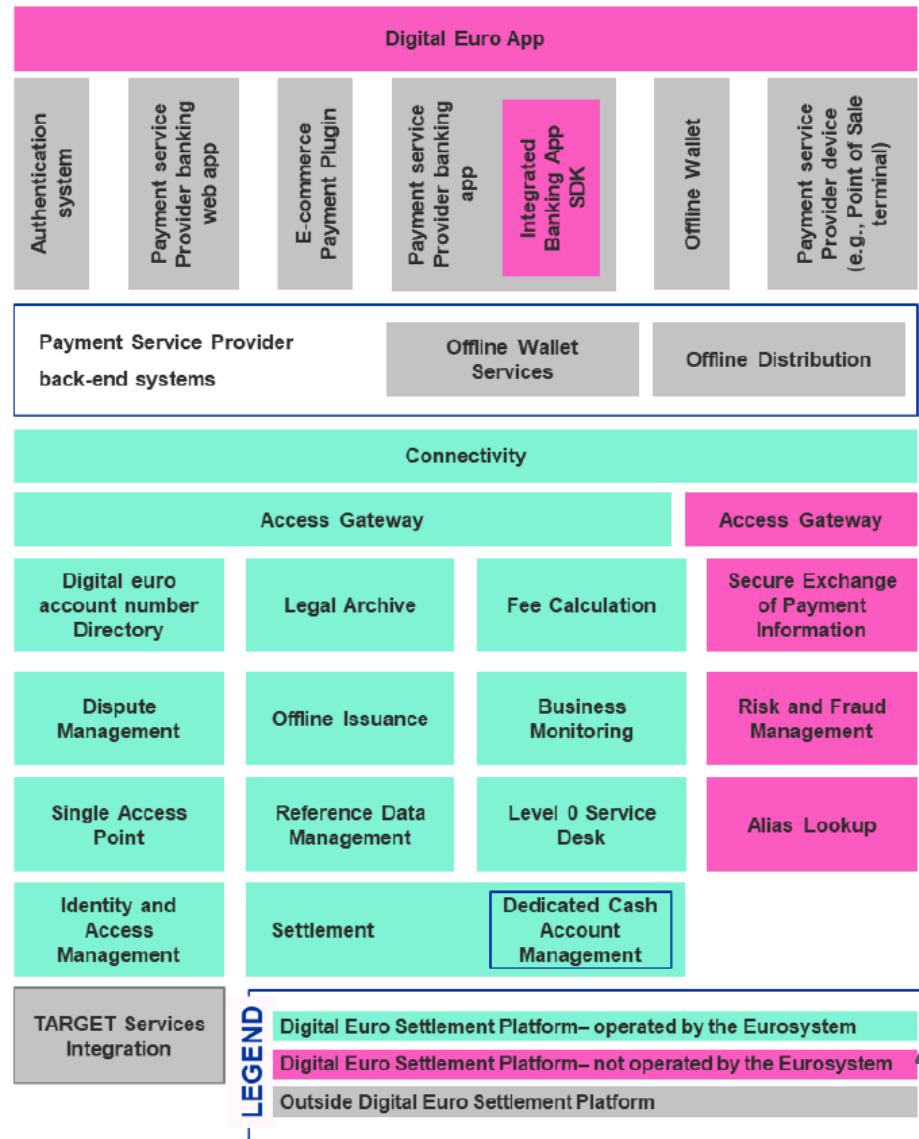
- 仲介機関は、「二層構造」の下で、日本銀行と利用者の間に立って、CBDCの発行・流通・還収に関する業務を行うことになる。具体的には、仲介機関は、利用者に基礎的な決済手段を提供する観点から、日本銀行との間においては、CBDCの発行・還収に関する業務を担うとともに、利用者との間においては、例えば取引の開廃手続・顧客管理やインターフェースの提供、利用者からの払出・移転・受入依頼への対応といった流通に関する業務を担うことが想定される。

■ デジタルユーロ調査フェーズの報告書（2023年10月）では、中央銀行（ユーロシステム）と仲介機関（PSP）の役割分担について、下図のとおり整理（P18）。

### Overview of the allocation of activities



デジタルユーロ準備フェーズの最終進捗報告書（2025年10月）では、アーキテクチャの概観図において、下図のとおり運営主体を整理（P20）。



中央銀行の役割の中に、中央銀行以外の主体が業務運営を担う（operate）部分が存在することを想定。

## ■ デジタルユーロ調査フェーズの報告書（2023年10月）では、仲介機関（PSP）の役割として、以下の業務を列挙（P18～27）。

- アクセス管理（access management）
  - 口座開廃、アプリ・カードの提供・管理、デジタルユーロ口座と銀行口座の連携、[ユーザー管理](#)等
- 流動性管理（liquidity management）
  - 払出・受入、ウォーターフォール機能、リバースウォーターフォール機能
- トランザクション管理（transaction management）
  - [送金の指図](#)、当人認証、送金の確定（例：金額が未定だった決済の金額の確定）等

Access management	Liquidity management	Transaction management
Onboarding digital euro users	Funding (manual & automated)	Transaction initiation (one-off transactions)
Offboarding digital euro users	Reverse waterfall	Authentication
Payment instrument and acceptance solution management (both provision and maintenance)	Defunding (manual & automated)	Payment confirmation/rejection notification
Linking digital euro account to non- digital euro payment account	Waterfall	Recurring payments
User lifecycle management (identification, data update, information display on balance and transactions, switching and user support)		Refunds
		Pre-authorisation service
		Dispute/exception management

### ■ デジタルポンドのデザインノート（2025年4月）では、中央銀行（BOE）の役割として、以下の業務を列挙（P7）。

- コア台帳の維持
- コアインフラの構築・運営
- ユーザー間の送金の処理・決済（settlement）

### ■ 同デザインノートでは、仲介機関（PIP）の役割として、以下の業務を列挙（P7～8）。

- ユーザーに対するデジタルポンド口座の提供
  - 口座開廃、デジタルポンド口座（残高）とユーザーの接続（身元確認<KYC>を含む）
- 送金の指図と受領
  - コア台帳に対する決済指図の送信、取引の管理
- ユーザーウォレット（ユーザーインターフェース）の管理
  - 取引履歴閲覧機能・残高照会機能の提供、アプリ・カード等のウォレット機能の提供



（図の出所）Bank of England, "The digital pound: Technology Working Paper" (2023年2月)

### 3. 整理の方向性：仲介機関と中央銀行の役割分担

■ 仲介機関が担いうる機能と中央銀行が担うべき機能については、仲介機関は日・欧・英で共通する顧客管理の機能を中心に担い、中央銀行は決済の機能を担うべきと考えられる。

— ユーザーのCBDC残高を記録する台帳の管理については、中央銀行自らが担うかたちのほか、中央銀行の管理責任のもとでアウトソースするかたちなども考えられるか。

機能	主要な業務	業務運営の担い手
顧客管理	口座開廃、身元確認（KYC）等	仲介機関が担いうる — 業務運営の担い方のパターンについて、第9回会合以降に検討
	顧客に対するインターフェース（アプリ、カード等）の提供	
	顧客からの送金指図の受領／台帳に対する送金指図の伝達	
	顧客からの照会対応	
	差押え等	
払出・受入	CBDCと自社発行の民間マネーとの交換	中央銀行が担うべき — アウトソースもあり得るか
	現金とCBDCの交換	
発行先・還収元	CBDCと中央銀行当座預金との交換	
台帳管理	ユーザーのCBDC残高を記録する台帳の管理	